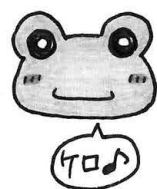


よっ葉だより

2025 年
6月23 日号
No.841

～地産地消～
いのちと健康くらしを守る
よっ葉生活協同組合



カエルの気持ちで 田植えがんばったよ！

上三川農業体験 5月31日(土)

毎年行っている民間稲作研究所での田植え。当日は朝から雨予報。強風が吹いて気温も低く、心配しながらスタートしました。冒頭に研究所の館野理事長から「気候変動に加えて、生産者も減り、日本の稲作は危機的な状況です。農業に関心を持って、農家をやってみたいという気持ちを持ってもらえたら嬉しいです」とのお話に、今日の活動の意味を再確認しました。

指導下さる研究所の川俣さんからの「今日は雨、田んぼにいるカエルの気持ちになってがんばって植えましょう！」との言葉に、俄然気合いが入ります。

さあ植えるぞ！というタイミングで雨脚が強くなり中止がよぎりまし



川俣さんの説明を聞いています



お天気が味方に♪ 雨の合間に植えてしまおう！

たが、「せっかく来たんだから一本でも植えたよね！」と田んぼへ。幸い雨が上がり一時間ほどで植え終わりました。…と思ったらまた雨。雨が止んだ合間に奇跡的に植えることができました。

子どもたちが楽しみにしていた生き物調査は

できませんでしたが、田植え中にクモを見かけました。徘徊するもの、網を張って待ち伏せするクモなどいろいろいるそうです。一帯はセト農薬や除草剤を使っていない有機栽培の地なので、生き物は種類も量もたくさんいるのです。川俣さん「田んぼには、ホウネンエビ(豊年エビ)、タガメ、ドジョウ、カエルなどたくさんの生き物がいます。彼らがいきいき活動しているのを見ると、幸せを感じますね」。田んぼの生き物たちも、お米作りの担い手です。彼らが元気だからこそ、おいしい有機米が作れるのですね。

お昼は、支援センターでよっ葉の雑穀ご飯、みそ汁、浅漬けなどを食べ、川俣さんご夫婦と参加者のみなさんと交流の時間を持ち

ました。「楽しかった」「ご飯を大切に食べます」「丁寧に作ってくださる農家の皆さんへ感謝します」など嬉しい声がありました。

昼食の米は、規格外として扱われる中米(ちゅうまい)。登熟期の異常高温で小さく、乳白などがありますが、①手早く洗米、②水を少なく、③早炊き炊飯の工夫で、おいしくいただきました。

連日、米不足の報道が続いています。よっ葉生協でもお米販売を限定せざるを得ず、お米を買えることが当たり前でなくなっています。農家の皆さんも、加速する気候変動へ対応しようと工夫しながら向き合っています。交流もできて、作ることから食べることまでの連なりを、自身事として身近に考える機会になりました。稲刈りは10月4日(土)の予定です。ご参加お待ちしております。

理事 三輪

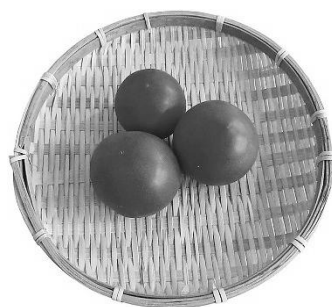


(左) 館野さん (右) 川俣さん

とびつきの笑顔で撮影に応じてくれた

くらら 7 月 2 週 産直商品のおすすめ

1 有機栽培トマト 500g



2 2kg箱入り



左)穰さん 右)嘉在さん

7 月 2 週くらら表紙で、鹿沼市の田島さんの

有機栽培トマトを案内しています。

お父さんの穰（みのる）さんの代から有機農業に取り組んでいる田島さん親子。有機トマトのほか、くららでおなじみの里いもの他に、水稻、大麦など、有機 J A S 認証を取得した圃場（一部）で育てています。心がけているのは、土地にあった作物、その時期によく育つ品種を選ぶこと。輪作や稲作と畑作を交互につかう田畑輪換（でんぱたりんかん）を取り入れています。同じ畑で連続して作るのではなく、種の異なる野菜を入れ替えることで、土壤環境をリセットして病害虫や雑草を抑えています。連作障害にならない工夫です。

田島さんの有機トマトも、害虫が入ってこないようハウスに防虫ネットを張り、多肥を避けて自然環境に合わせた無理をさせない作物づくりに徹しています。トマトに出やすいコナジラミ類やアブラムシ、さまざまな病気を防ぐため、農薬を使うことが当たり前のトマトで、有機栽培で出荷するのは本当に難しいことです。くららでは短い期間の案内になりますが、親子二代でこだわりの思いを込めて作っている旬の有機トマト、皆さんにたっぷり食べてもらいたいと思います。

（理事 三輪）



嘉在さんの案内でトマトハウスへ。これから赤く色づいてきます

（5月 29 日）



3 月のよつ葉生協農産部会で生産者向けに登壇していただきました

94 赤しそ

恥ずかしながら、昨年初めて赤しそジュースを作りました。色もきれいで、見るだけでテンション上がります。

自分好みの甘さにできるのもいいところ。ジュースを作った後の葉は、ふりかけにして余すところなく使いきりました。

（産直委員 国府田）



114 カットきのこ3種

しいたけとえのき茸、舞茸の 3 種類がカットされてパックに入っています。私は小さい袋（3 つくらい）にそれぞれのきのこを入れ、1 回分のきのこミックスにして冷凍します。そのまま汁物や炒め物に使えて便利です。

（産直委員 石川）



高橋農園見学報告 2 月 28 日 小山委員会

高橋農園は地球温暖化対策に注力する農園です。主な取り組みは 3 点あります。

まず、2017 年導入の約 40 k w ソーラーシェアリング。これにより、化石燃料の使用を抑え、CO₂排出量削減を実現しています。これは「カーボンニュートラル」な発電です。

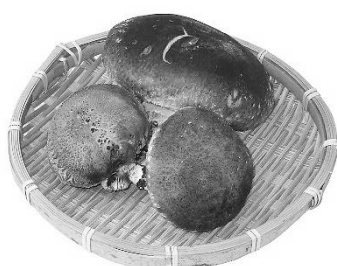
次に、1980 年頃からバイオマス暖房の活用。しいたけ栽培ハウスの暖房に使用済みホダ木を燃料としています。これも化石燃料を使わず CO₂排出量削減に貢献し、カーボンニュートラルを達成しています。そして、2023 年からの「CCUS」への挑戦です。使用済みホダ木を炭にして、煙に貯留する画期的な取り組みです。木材が吸収した CO₂を炭として固定することで大気中の CO₂を削減する「カーボンマイナス」を目指しています。これは、農地の土壤改良にも繋がります。

高橋農園はこれらの取り組みを通じ、化石燃料に頼らない持続可能な農業を実践し、地球温暖化防止に大きく貢献しています。そして、何とんでも農薬不使用のしいたけは、肉厚でジューシーでとてもおいしいです。

（小山委員会 本間）

くらら 7 月 2 週

112 どんぐりくらぶの原木椎茸



参加してみませんか

<お問合せ よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613>

小 山

夏休み！親子でよつ葉のお仕事見学！

みなさんのお家に届くよつ葉のカatalogや商品。いったいどうやって用意されているのかな？夏休み、親子で確かめよう！
※よつ葉生協本部センターでセットラインの見学をします。

日 時：7月31日（木）10：00～12：00（受付9：30～）

会 場：よつ葉生活協同組合（本部）栃木県小山市栗宮 1223

対 象：組合員と組合員の家族のみ

参加費：無 料

定 員：10 組（30 名程度）

託 児：な し

締切日：7月11日（金）

主 催：よつ葉生協



よつ葉文庫 新刊登録

NO.1338 『能登のムラは死なない』 藤井満、農山漁村文化協会

朝日新聞記者だった著者が2011年から2015年まで輪島支局にいた時に取材したものを元に、2024.1.1の能登半島地震による被害を輪島にいた当時出会った人も訪ね歩き、まとめた内容。珠洲市は1975年に原発を誘致したが、反対運動が続き2003年に凍結となった。市民を分断したの反対運動は、2011.3.11の東電福島原発の放射能事故で、反対して良かったと言っていた人も2024.1.1で被災されていました。

日本各地で続けられている神事、祭りなどの歴史的伝統行事は、時代の流れ、人口減などで消えてしまっている方が多くなっているかと思います。能登半島は地形が険しく、集落が独立して独自の文化がつくられています。日本海の冬の厳しさは、地元での生業もなく、出稼ぎが唯一の現金収入でした。山、海の厳しい環境を生きていく強さの元は何なのかが、読んでいく内に解明されます。地理的な困難さが人のつながりと外に向けたやさしさを育て、神事、祭りなどの伝統行事を支えていたのではないのでしょうか。何度も何度も災害に遭いながら、立ち上がる姿は、回りの私たちでさえ、つらくなり、絶望的になりますが、地に足をつけて生きてきた能登をつくり出すに違いないと思える一冊です。地域性、考え方、生き方、とにかく生きる知恵に関心させられました。

（顧問 富居）

よつ葉文庫の感想をご紹介します

NO.1316 フランスの田舎に心ひかれて

アツという間に読み終えました。私も都会から田舎に移住した一人でしたが、Mynaさんはサラリーと生きてて素敵です。私の住む益子は焼き物の街で移住者も多く、同業者との付き合いだけで人間関係満足してしまい地元の方となかなかいい関係が作れず、Mynaさんはすごいと思いました。市民生活という形の古さもあって合理性だけを追いかけるのではなく、何事、時間がかかったり、する所も好感が持てます。“食品廃棄禁止法”（食べ物を捨てちゃいけない法律）ぜひ見習って欲しいです。（大和さん）

NO.1310 新・地球とからだにやさしい生き方暮らし方

内容が現代の問題をズバリ示してくださり、知らずに過ごしていてドキッとしました。国民の側に立ってではなく、企業や生産者に有利に制度を無くしてしまっていること、国でやっているから、会社で販売しているから・・・と安心してはいけないし、身体や地球に良いことをしていかないと戦争もそうですが破綻すると思いました。出来るところから周りの人と手をつないでやっていかないと未来は危ないと感じました。（S・Fさん）

NO.1322 幸せな100歳になる習慣 五臓六腑のバランスを整える

へえーっと思ったことは“たんぱく質不足は冷えの始まり&糖分会を摂り過ぎる傾向がある”という文でした。健康に気をつけているつもりですが野菜を多く取り過ぎ、やせているのに血糖値が高めです。お医者さんに行ったら「たんぱく質を多く摂って下さいね。」と言われたのは、やっぱりなあ、と思いました。（Y・Oさん）

NO.1321 国民の違和感は9割正しい

日頃目にしているニュースもどこまで事実なのか簡単に情報が手に入る時代、決めつけてしまうかもしれない自分、周囲の人、日本人に寒気のする思いがしました。トランプ氏の勝利、兵庫県知事選の斎藤氏の勝利もメディアによる操作がどれ程あったのか・・・不安です。（K・Wさん）

よつ葉文庫のご案内

貸出期間はすべての本で1週間とします。

「よつ葉文庫」は組合員のための図書室です。多くの組合員に貸出するためご協力をお願いします。本の一覧はHPでご覧いただけます（組合員の方へ「よつ葉文庫」のアイコンをクリック）。借りたい本は、注文書のご意見ご要望欄に本のナンバー・題名・貸し出し希望を記入して、配送員にお渡しください。翌週、配送でお届けします。貸し出し希望が多い本の場合お待ちいただくこともありますので、ご了解ください。

第 12 回 定例理事会報告 5 月 28 日(水)

《報告・協議事項》

(1) 顧問職の単年延長について

顧問の顧問職任期の 2025 年度延長について提案がされ、承認されました。

(2) 役員選任規約の一部改定について

役員選任規約第 2 条 3 項別表の理事選挙区名称の変更と地区の一部見直しについて提案がされ、承認されました。

(3) 4 月度組合員活動報告

①委員会サポートチームより

②本部活動

- ・よつ葉の広場～話・輪・WA
- ・農業体験
- ・夏休み親子 本部セットライン見学

③その他

第 13 回 定例理事会報告 同日午後開催

《報告・協議事項》

(4) 第 43 回通常総代会の運営について

第 43 回通常総代会の運営について最終確認を行いました。

●4 月度事業実績

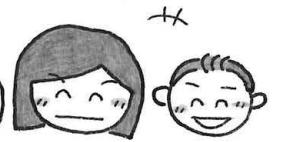
組合員数	27,291 名 (5 月 20 日現在 前年比 100.3%)
	加入 152 名 脱会 108 名
供給高	388,398 千円 (前年比 109.3%)
	2025 年 4 月～累計 757,797 千円 (前年比 103.8%)

よつ葉太陽光発電報告

○3 月 24 日から 4 月 23 日 (31 日間) の太陽光発電量は、16,658 kWh でした。CO2 削減量は 5,133kg (18L の灯油缶を 216 本燃焼した量) です。

上三川農業体験
田植えをしよう！

ご参加された方のお届けします



久しぶりに農業イベントに参加させていただきました。農家ではよい機会、このような機会に子どもを体験させていただけると、大変ありがたく思っております。ランチ付きも、いつもとてもおいしく、うれしいです。ありがとうございます。(A・Sさん)

足がどろだらけになりとても楽しい時間でした。東京では体験できない経験ができて本当によかったです！子どもたちが意外にもちゃんと植えていて母である私も嬉しい気持ちになりました。(小山田さん)

ごはんが
美味でした
ごちそう様でした

雨の中ががんばりました。さむかった。給食よりお昼ごはんが美味しかったそうです！(Y・Oさん)



よつ葉生活協同組合のイベントへの参加は？(初めて・□ 回目)
「まんやのどちゅううこはちゅーけと
たのしゅうたしまたやりたーいけと
こんとはころはよいようにやる。」

(優花さん)

(息子)

- ・泥がおもくて足が抜けかたけど、楽しかった。
- ・お米ができるまでの苦労が分かり、より感謝の気持ちになりました。

いけけんが楽しかった (S・Fさん)

田植えの時だけ雨が止んで、とても有意義な体験をさせていただきました。(H・Kさん)

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告 (6月2週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位: 円)

放射能から子どもを守る募金 (900 番)	6,600
震災孤児を支援する募金 (910 番)	19,900
「有機農業と国産種子」募金 (920 番)	8,600
合 計	35,100

共同購入注文書裏の「10 品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB 注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口 100 円の募金になります。

現在募集中のイベント

7 月 19 日 (土) やさと農業体験②

「野菜の収穫をしよう！」

お申込みはこちら

※切 7 月 4 日 (金)



ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮 1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホームページ



Facebook



Instagram